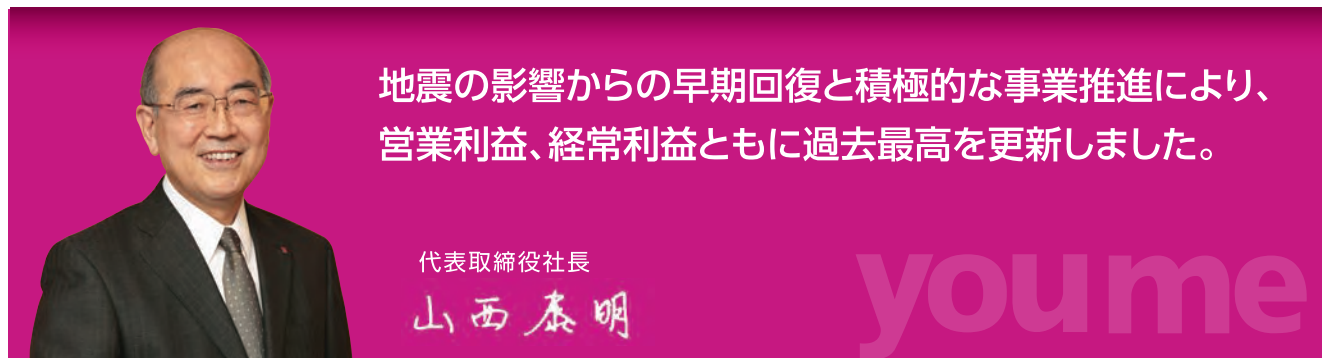


# 第56期 報告書

平成28年3月1日▶平成29年2月28日





株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当期における我が国の小売業を取り巻く環境は、緩やかな改善が続く一方で、英国のEU離脱や米国大統領の政策等により、内外経済の不確実性が高まり先行き不透明な状況が続いています。

当社グループでは4月の熊本地震発生により多大な影響を受けましたが、被災地救援を目的として避難所への支援物資の提供、被災地を除くグループ全店舗において災害義援金募金活動を展開し、1日も早い被災地の復興に向けた取り組みに注力しました。また、被災により休業状態にあった当社の「ゆめタウンサンピアン」(当期末現在で全館が営業を再開済み)及び「ゆめタウンはません」(当期末現在では1階及び2階フロアの営業を再開済み、3階フロア及び映画館は平成29年4月に営業再開済み)の2店舗で営業を再開しました。

店舗面では、「ゆめタウン徳山」を開業、3月に当社の「ゆめタウン筑紫野」などをリニューアルオープンさせ、11月には「ゆめタウン佐賀」を増床リニューアルし、ドミナント戦略をさらに進展させるとともに、既存店舗の活性化を強力に推し進めることで、地域における集客力をより一層前進させました。

商品面では、創業「55周年記念商品」とともに、被災地域で生産された食材や商品を積極的に全店展開し、販売増加に結び付けました。また、店舗を起点とした発想で地域や世代ごとの嗜好の相違に対応した品揃えや価格設定の見直しに努めるとともに、原価低減やロスの抑制により価格競争力を高めてきました。

食品スーパー子会社では、地震の影響により一部店舗にお

いて一時的に休業を余儀なくされたものの、営業再開後には既存店売上高を早期回復させました。また、カード戦略の共有化や共同仕入れの拡大などで、業務効率の改善に取り組みました。さらに連結子会社である株式会社スーパー大栄及び株式会社ユアーズでは、店舗毎の収益力の将来性を見極め、店舗閉鎖を断行する一方で既存店舗の活性化に取り組みしました。

小売周辺事業では、電子マネー「ゆめか」の利用拡大やショッピング時のクレジット利用を推進しました。また、前期に連結子会社化したユアーズ等へのカードシステム導入を推し進めるとともに、ゆめタウンに入居するテナント様をはじめとする外部加盟店での取扱いを拡大することで、当社グループにおけるカード戦略の一層の深化を図りました。

これらの結果、当社グループでは営業収益は増加し過去最高となりました。

次期については、消費マインドの低迷が継続する一方で、ハレの日やコト消費に支出する動きはより顕著となり、雇用・所得環境の改善による購買力の改善期待もあります。当社グループでは、こうした環境変化と多様なお客様ニーズを的確にとらえ、さらに“いいものを安く”提供してまいります。

2017年4月、広島市西区にイズミ・カインズ・広島T-SITEからなる大型商業施設「LECT(レクト)」を、5月には島根県に「ゆめタウン江津」の2店舗を新規出店しました。既存店では地域一番店の利便性をさらに高めるべく、ハード・ソフト両面でのリニューアルを推進し、さらに経営効率を高め、より一層の企業成長につなげて参ります。

株主の皆様におかれましては、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

進化し、深化する「youme」を  
地域になくしてはならない存在。私たちは「地域一番店」を目指します。



### 連結財務ハイライト

#### 営業収益

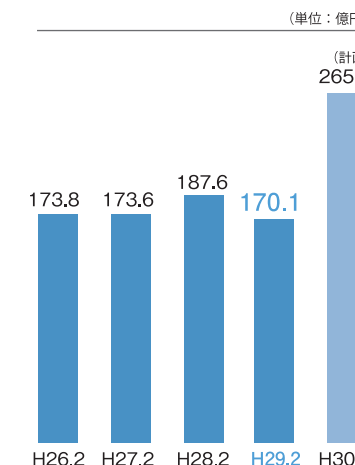
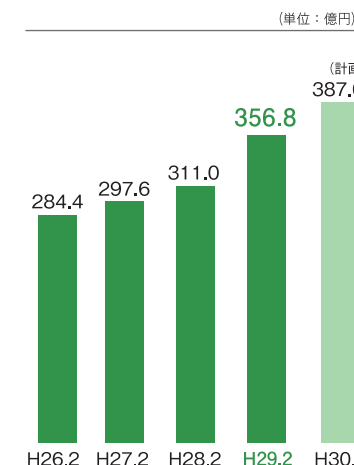
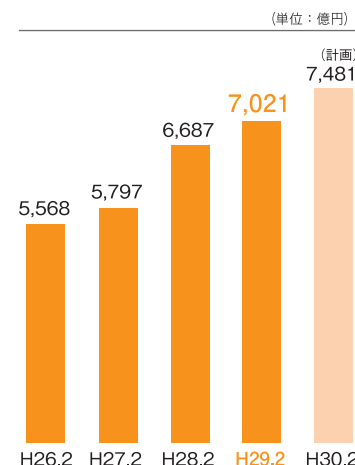
7,021 億円	前年同期比
	105.0 %

#### 経常利益

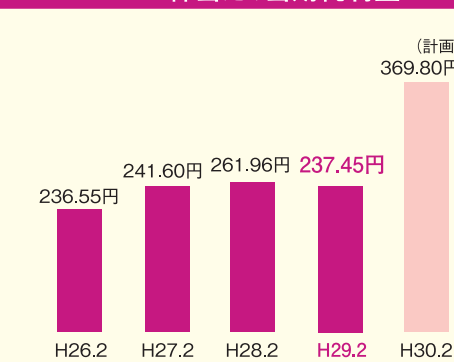
356.8 億円	前年同期比
	114.7 %

#### 親会社株主に帰属する当期純利益

170.1 億円	前年同期比
	90.7 %

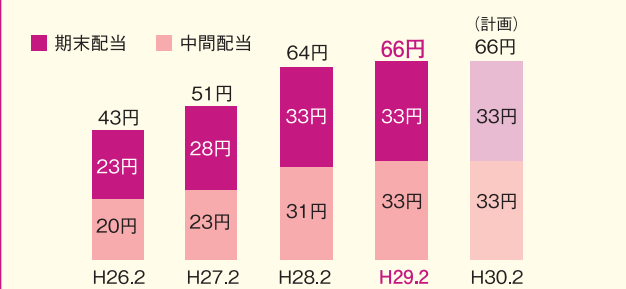


#### 1株当たり当期純利益



#### 1株当たり配当金

1株当たり配当金を以下のとおりとさせていただきます。





# LECT

2017年4月28日(金)、広島の新ランドマークが誕生!  
「知」・「食」・「住」をテーマに、まったく新しい時間と空間を創造!

広島市西区にオープンした新業態「LECT(レクト)」。  
そこはフードコートと食品館を中心にイズミが展開する「食」のゾーンと、代官山や湘

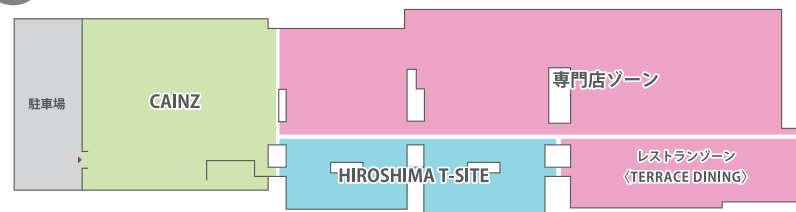
南で人気の広島T-SITEが展開する「知」のゾーン、ガーデンリゾートをテーマにカインズが展開する「住」のゾーンの3つのキーテナントと150もの多彩な専門店が創り出す、今までにない時間と空間を提案する広島の新ランドマークです。毎日、行きたくなくなる。わざわざ行きたくなくなる。そんな「LECT」の魅力をご紹介します。



## 1F FIRST FLOOR



## 2F SECOND FLOOR



### 店舗コンセプトと ネーミングにこめた思い

「LECT(レクト)」の店名は、メインテーマであるLiving「住」、Eating「食」、Culture「知」と、Town・Time「街・時」の頭文字にちなんで名づけられました。そして選ぶ楽しさを表したSELECTにもちなみ、さまざまな知・食・住が集約し、今までになかった時間をつくり、心ゆくまで楽しんでいただけの時間創造型のライフスタイル提案店舗をめざしています。

### 店舗概要

- 敷地面積 / 約54,800㎡
- 延床面積 / 約128,500㎡
- 店舗面積 / 約39,000㎡
- 駐車台数 / 約3,100台
- 駐輪場台数 / 約450台

»»「食」を目当てに、毎日行きたくなくなる!わざわざ行きたくなくなる!

## Eating 「食」のゾーン イズミ

■ 広島随一の「食」の世界。大フードコートは驚きの1,000席!

LECTの中で最もエキサイティングな魅力は、「食」機能の充実。そのスケールは約3,000坪で、全店舗面積の1/4以上を占めます。その中心を担うのが、イズミが1階で展開する座席数1,000席を誇るフードコート『1000 DISHES (サウザンドディッシュ)』です。広島を代表する美味しさをライブキッチンで味わう「Le Marche」、美味しい食事と会話を楽しむ食卓型フードコート「La Table」、くつろぎの時間を楽しむ公演型カフェスペース「La Place」の3つの個性的な空間を創造し、気分やタイミングにあわせて選べるようになっています。



■ 広島初出店の銘店・話題店がぞくぞくのフードテナント群!

食品・銘店コーナーやレストラン街も、圧倒的な品揃えと個性的な店舗群により、話題性がいっぱいです。食品・銘品は、生鮮と惣菜が充実したイズミのyoume食品館を中心に、お菓子や惣菜の人気店がずらり!「地元広島の味を再発見」をテーマにした品揃えも人気です。またレストランでは、関東で人気の手作りごはんカフェ「おぼん de ごはん」が中国地方初での登場をはじめ、仙台牛たん専門店の「仙台牛たん森商店」、本格的なお酒と高品質の紅茶が楽しめる大人の社交場「ジャルダンサロン」など、全国から話題の専門店が多数集結し、これまでにないレストランストリートとなっています。





## 》》「楽しく、丁寧に暮らす」という生き方を提案する文化複合施設

### Culture 「知」のゾーン 広島 T-SITE

#### ■ 東京・代官山や湘南で話題沸騰の蔦屋書店が広島に登場!

T-SITEは、本・映画・音楽といったカルチャー・コンテンツを中心に豊かな生活を提案する「ライフスタイル提案型商業施設」。首都圏ではすでに代官山や湘南などで運営されており、高感度な都市生活者の人気を集めています。

その特長は、蔦屋書店を中心に、雑貨やファッション、レストランやカフェなど29店の専門店を集積し、多様なライフスタイルを提案していること。店内にはそれぞれの専門知識を持った「コンシェルジュ」を配置し、本選びはもちろん、お客さまのさまざまな相談や希望に応じます。



## 》》ホームセンターの枠を超え「楽しい時間を創る」店

### Living 「住」のゾーン カインズ

#### ■ 店内には工作室やペイントルーム、3Dプリンター装備のデジタル工房まで!

カインズは東日本を中心に店舗展開している人気のホームセンターで、「世界を、日常から変える」をテーマに従来の概念を超えて、驚きのある店づくりをめざしています。

広島初登場となるLECTの店舗にも、工作室やペイントルームなど日常的なクリエイティブ心を刺激するワークショップスタジオを設置。さらに一番の目玉はデジタル工房で、3Dプリンターなど一般にはあまり触れる機会のない専門機器を備え、専門スタッフが初心者でも気軽に体験できるよう体制を整えています。



平成28年11月22日  
新生増築 グランドOPEN!

## ゆめタウン佐賀

### 九州最大級の店舗にスケールアップ!

2006年オープンの「ゆめタウン佐賀」は開業10周年を迎え、集客も地域密着も順調に推移しスケールアップへの期待の声も強かったことから、2016年3月から大規模増築工事に着手。11月22日に、新規テナント55店舗を加えて211の専門店が集う新生「ゆめタウン佐賀」としてグランドオープンしました。

新しい店舗はキッズ関連ゾーンの新設をはじめ、フードコートの拡大リニューアル、佐賀初登場の新ショップ群などの効果で、話題性も満足感もスケールアップ。ますます楽しく便利になったとご好評をいただいています。



増築概要 [増床前]・延床面積/約115,000㎡ ・店舗面積/約49,000㎡ ・専門店舗数/173店舗  
[増床後]・延床面積/約134,000㎡ ・店舗面積/約58,000㎡ ・専門店舗数/211店舗

平成28年12月15日  
グランドOPEN!

## ゆめタウン南行橋

### 地域に密着した小商圈SCとして再生オープン!

「ゆめタウン南行橋」は、2015年に惜しまれつつ閉店した丸和行橋サンパルにかわり、今のライフスタイルや地域ニーズにそってブラッシュアップした小商圈型のショッピングセンターです。再生オープン後は、集客力の強いドラッグストアや書店、家具インテリアショップをキーテナントとして迎えるとともに、鮮度と価格、買いやすさにこだわった直営食品売場などを充実させて、毎日の暮らしに便利な店として新たなスタートを切りました。



店舗概要 ・敷地面積/約30,200㎡ ・延床面積/約17,900㎡ ・店舗面積/約12,600㎡ ・駐車台数/約600台 ・駐輪台数/約100台





## 復興に向けて、明日に向けて 共に歩み、共に寄り添う！ 熊本の復興支援活動に関するご報告

2016年4月、マグニチュード6.5と7.3という大地震が相次いで熊本県を襲いました。

被災後イズミはすぐに行動を開始し、グループ一丸となって熊本の復興支援に取り組んできました。

当社グループ内でも多くの店舗が被害を受けましたが、被災店舗を次々に営業再開させ、

特に被害の大きかった「ゆめタウンサンピアン」と「ゆめタウンはません」も、2016年3月末時点で一部フロアをのぞき営業を再開し、完全復興まであと一歩という状態までできました。今回のCSRでは、熊本における復興・復旧活動についてご報告します。



### ▶ 本部・指揮系統

前震翌日の4月15日にはイズミ本社に災害対策本部を設置。本震のあった16日にはゆめタウン久留米に現地対策本部を設置し、本社とテレビ会議システムで結ぶことで、情報を共有化し指揮系統を確立しました。



### ▶ 安否・被災確認

被災後、本部より被災店舗へ従業員リストを送付し、17日正午にイズミグループ全従業員、19日にはテナント全従業員の安否確認を完了。従業員は全員無事で、軽傷者2名の被害でした。

### ▶ 被災店舗への応援

被災翌日には本社より71名を熊本へ派遣し店舗の復旧にあたり、営業再開後もレジ応援などで、すみやかな営業再開を支援しました。



### ▶ 営業・休業店舗の情報公開

災害直後に本社から被災状況調査のための開発本部スタッフが現地へ派遣。休業・営業状況を本社に伝えるだけでなく、ホームページ上でも公開し、お客さまへの情報提供を行いました。

### ▶ 地域支援活動

4月16日から171店舗で義援金募金を開始。熊本県に義援金・支援金を寄託しました。また5月20日より、被災店舗を除く全店で「がんばろう熊本・大分！応援セール」を開催しました。



特に被害の大きかった2店舗も、ほぼ被災前の状況まで復旧しました。

## 「ゆめタウンサンピアン」

熊本県内の店舗の中でも特に被害の大きかった「ゆめタウンサンピアン」は、2016年9月、地域の生活インフラとして欠かせない食品の1階フロアの営業を再開。さらに2016年12月に、2階・3階フロアの全営業を再開。書籍の「明林堂書店」や化粧品店の「ハウスオブローゼ」、雑貨の「ダイソー」など、毎日の暮らしに便利なテナントも次々に復活していったことで、地域のお客さまからも喜んでいただきました。



サンピアン営業再開

## 「ゆめタウンはません」

同じく大きな被害を受けた「ゆめタウンはません」は、2016年9月、食料品を扱う1階フロアを先行して営業再開。続く11月30日に、婦人・紳士・子どものファッション売場を中心にした2階フロアの営業を再開し、熊本初の「アカチャンホンポ」や、キッズ&レディースシューズ専門店「ABCキッズマート」など5店舗の新規テナントを導入しました。残る1階フードコートと2階TOHOシネマス、3階フロアも、2017年4月20日(木)オープンし、震災前よりさらに魅力的な店舗として全館営業を再開しました。



はません営業再開

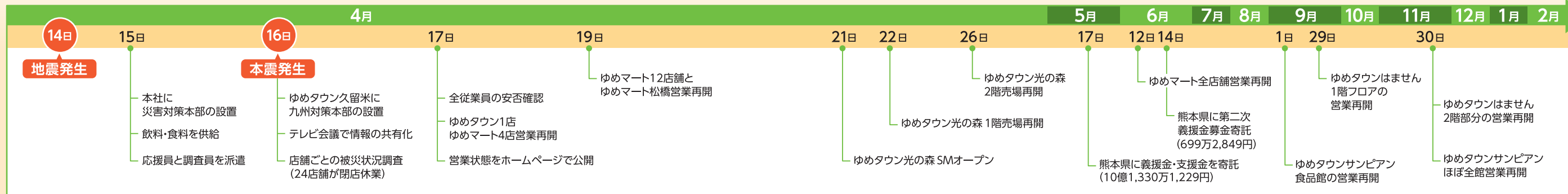
## これからも熊本とともに。

熊本地震に関するイズミの支援活動に対し、熊本県から感謝の意を表明するために、くまモンが広島市のイズミ本社を訪れました。訪れたくまモンからは、山西社長と名刺交換をした後、お礼の色紙をいただきました。熊本県内には、今もまだ大地震による影響があちこちに残されています。イズミはこれからも、さまざまなカタチで熊本の復興を支援していきたいと考えています。



くまモンと記念写真

【地震発生直後からの記録】





イズミグループは、小売事業を中核とし、無駄のないスリムなグループ構造を維持すると同時に、その他関連事業とのシナジー効果を追求してまいります。

各グループ企業が、それぞれの特性を活かしつつ、積極的に事業展開することで、お客様に新たな驚きと感動をお届けしてまいります。

## 株式会社 スーパー大栄

### 今期、利益率向上及び マネジメント力向上により、V字回復達成!

昨年2月に完全子会社となり、仕入原価の低減、ロスの改善等が急速に進み、利益率が向上しました。また、各経費の見直しによる大幅な経費削減が行われ、今期は経常利益予算を大幅に上回る結果になりました。これも社員一人一人がイズミグループの一員であることを自覚することで、仕事に対する取り組み方が変わってきた結果です。これからも、全従業員が一致団結し、地域の皆様に満足いただける店舗づくりを目指してまいります。



## 株式会社 ユアーズ

### グループ内での業務連携も順調に推移。 食品スーパーの専門性を高め収益体制を 構築します。

広島、山口、北九州を中心に、食品スーパー37店舗、高質スーパー3店舗等を展開。商物流、システム、カードなどイズミグループとの業務連携も順調に進んでおり、商品やサービスに関してお客様から高い支持をいただいています。今後は食品スーパーとしての専門性を高め、収益体制を構築します。イズミの中長期ビジョン年商1兆円の達成に向け、グループの一員として、食品販売分野で一翼を担っていただけるよう邁進してまいります。



## 株式会社 イズミテクノ

イズミテクノでは、平成29年度4月から5年間継続して広島県立美術館、名勝・縮景園の指定管理の指名を受けました。現在、美術館・縮景園のほか、広島県立びんご運動公園、東広島運動公園、県民文化センターなど7物件の指定管理を獲得し、公共施設の管理運営と共に地域の賑わい創出に取り組んでいます。今年も公募物件の情報を収集し、積極的に新規物件の獲得を目指します。

### イズミテクノ指定管理拡大中! 広島県立美術館・縮景園の 指定管理の指名を継続して受けました。



縮景園



広島県立美術館

## 株式会社 ゆめカード

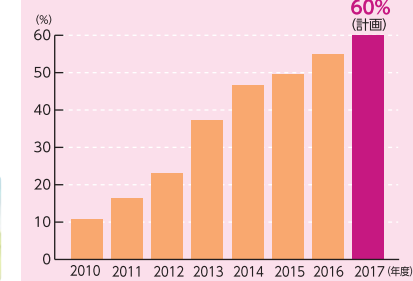
2017年2月末現在で、電子マネー「ゆめか」の累計発行枚数は、617万枚、クレジットカードの有効会員数は124万枚となりました。

2017年度は、ゆめか、クレジットの決済率(イズミ直営売上における売上構成比)アップに取組み、西日本一と誇ることのできる「キャッシュレス比率60%」を実現させます。また、2020年までに加盟店数1万店(含、値引積立加盟店)を展開すべく推進体制づくりに注力します。

### (GMS) 西日本一の キャッシュレス60%を 実現させます!



### キャッシュレス決済比率推移



## 株式会社 ゆめマート

昨年4月に発生した熊本地震により1店舗の建て替えを余儀なくされましたが、今夏、店名も新たに「ゆめマート龍田(たつだ)」としてオープンいたします。ゆめマート龍田では、イズミグループとして培ってきたノウハウと地域に即した商品提供で地域の皆様に貢献してまいります。また、既存店におきましても、これまで以上に地域の皆様の要望に対応した美味しくして鮮度のよい商品を提供し、喜んでいただけるよう努力してまいります。

### 地域に密着したお店づくりを推進し、お客様に喜んで いただくことで震災復興に貢献してまいります。



熊本のお菓子コーナー



熊本の豆腐コーナー

## イズミ・フード・サービス 株式会社

### ゆめシティに和から和プラス中華へ。 魅力ある店舗づくりのために改装実施。

2017年3月22日ゆめシティのOKONOMI ICHIBANNCHIが、大阪王将とお好み一番地として改装オープンいたしました。同一スペースを2店舗に分割して、新たに中華料理を提供。フードコート内でのお客様の選択肢が広がるとともに、当社にとっては売場効率の向上が図れました。改装オープン以降、好調な業績で推移しております。



(改装前)



(改装後)

# 業績ハイライト

営業収益

**7,021 億円** 前年同期比 105.0%

経常利益

**356.8 億円** 前年同期比 114.7%

親会社株主に帰属する当期純利益

**170.1 億円** 前年同期比 90.7%

## 連結決算の推移

単位:百万円

	平成26年2月期	平成27年2月期	平成28年2月期	平成29年2月期	平成30年2月期計画
営業収益	556,852	579,739	668,784	702,121	748,100
前期比	104.0%	104.1%	115.4%	105.0%	106.5%
営業利益	29,100	30,330	31,912	35,670	39,000
前期比	104.1%	104.2%	105.2%	111.8%	109.3%
経常利益	28,446	29,767	31,102	35,688	38,700
前期比	105.0%	104.6%	104.5%	114.7%	108.4%
当期純利益	17,384	17,360	18,766	17,015	26,500
前期比	107.4%	99.9%	108.1%	90.7%	155.7%
総資産	397,071	432,416	468,026	476,885	—
純資産	130,178	145,709	157,851	171,963	—
1株当たり当期純利益	236.55円	241.60円	261.96円	237.45円	369.80円
1株当たり純資産	1,672.92円	1,876.22円	2,060.44円	2,240.66円	—

## 単体決算の推移

単位:百万円

	平成26年2月期	平成27年2月期	平成28年2月期	平成29年2月期	平成30年2月期計画
営業収益	535,492	557,074	609,032	648,030	696,000
前期比	104.2%	104.0%	109.3%	106.4%	107.4%
営業利益	24,785	25,899	28,212	30,222	31,900
前期比	105.8%	104.5%	108.9%	107.1%	105.5%
経常利益	23,941	25,058	27,355	30,139	31,600
前期比	106.7%	104.7%	109.2%	110.2%	104.8%
当期純利益	15,549	14,761	17,811	14,438	22,100
前期比	124.3%	94.9%	120.7%	81.1%	153.1%
総資産	337,700	360,536	371,093	385,727	—
純資産	98,684	110,950	123,302	133,406	—
1株当たり配当金	43.00円	51.00円	64.00円	66.00円	66.00円

# 連結財務諸表

## [連結]貸借対照表

単位:百万円

	前期 H28.2.29	当期 H29.2.28		前期 H28.2.29	当期 H29.2.28
(資産の部)			(負債の部)		
流動資産	88,708	88,064	流動負債	147,963	132,889
現金及び預金	13,844	10,738	支払手形及び買掛金	33,479	30,466
受取手形及び売掛金	31,387	33,645	短期借入金	50,704	27,291
商品及び製品	26,597	27,658	1年内返済予定の長期借入金	23,320	26,415
仕掛品	114	40	未払金	15,789	20,206
原材料及び貯蔵品	437	480	未払法人税等	7,144	7,115
繰延税金資産	2,561	2,505	賞与引当金	1,753	1,921
その他	14,356	14,010	役員賞与引当金	38	41
貸倒引当金	△ 590	△ 1,016	ポイント引当金	2,302	2,418
固定資産	379,318	388,821	商品券回収損失引当金	111	113
有形固定資産	325,308	335,274	災害損失引当金	—	1,877
建物及び構築物	358,775	371,618	事業整理損失引当金	433	—
減価償却累計額	△203,231	△214,684	資産除去債務	21	6
建物及び構築物(純額)	155,544	156,934	その他	12,863	15,014
機械装置及び運搬具	7,332	8,008	固定負債	162,211	172,032
減価償却累計額	△ 5,228	△ 5,419	長期借入金	118,616	128,210
機械装置及び運搬具(純額)	2,104	2,589	リース債務	255	128
土地	156,890	157,628	長期預り敷金保証金	24,044	23,827
リース資産	902	548	役員退職慰労引当金	1,435	1,644
減価償却累計額	△ 636	△ 351	利息返還損失引当金	230	168
リース資産(純額)	265	197	退職給付に係る負債	7,308	7,429
建設仮勘定	2,256	9,730	繰延税金負債	2,272	2,509
その他	41,188	41,991	資産除去債務	7,445	7,565
減価償却累計額	△ 32,940	△ 33,796	その他	603	549
その他(純額)	8,247	8,194	負債合計	310,175	304,922
無形固定資産	16,075	14,709	(純資産の部)		
のれん	7,236	6,235	株主資本	147,493	159,693
その他	8,839	8,474	資本金	19,613	19,613
投資その他の資産	37,934	38,836	資本剰余金	22,577	22,493
投資有価証券	6,800	7,924	利益剰余金	123,785	136,070
長期貸付金	1,483	1,651	自己株式	△18,483	△18,484
繰延税金資産	5,444	5,269	その他の包括利益累計額	155	873
敷金及び保証金	19,672	18,572	その他有価証券評価差額金	793	1,415
その他	4,944	5,992	退職給付に係る調整累計額	△ 638	△ 541
貸倒引当金	△ 411	△ 573	非支配株主持分	10,203	11,396
資産合計	468,026	476,885	純資産合計	157,851	171,963
			負債・純資産合計	468,026	476,885

資産 **4,768 億円**  
前期末比 ▶ 88億円増加

・当期の設備投資額は27,727百万円であり、これは主に店舗新設に係る先行投資等によるものです。その結果、有形固定資産は、減価償却実施後で9,966百万円増加しました。  
・受取手形及び売掛金は、クレジット取扱高の増加等により、2,257百万円増加しました。

負債 **3,049 億円**  
前期末比 ▶ 52億円減少

・支払手形及び買掛金は、連結子会社で仕入先の見直しを行ったこと等により、3,012百万円減少しました。  
・未払金は、店舗新設に係る設備未払金等の増加等により、4,416百万円増加しました。  
・熊本地震に起因する災害損失引当金を1,877百万円計上しました。  
・短期借入金及び長期借入金は、10,724百万円減少しました。

純資産 **1,719 億円**  
前期末比 ▶ 141億円増加

・利益剰余金は、配当金の支払により減少したものの、内部留保額の上積み等により12,285百万円増加しました。  
・これらの結果、自己資本比率は33.7%となり、前期末の31.5%に比べて2.2ポイント上昇しました。



## 連結財務諸表

### [連結] 損益計算書

単位:百万円

	前 期 H27.3.1~H28.2.29	当 期 H28.3.1~H29.2.28
<b>営業収益</b>	<b>668,784</b>	<b>1</b> → <b>702,121</b>
売上高	638,754	670,253
売上原価	501,346	522,833
売上総利益	137,408	147,419
営業収入	30,029	31,867
営業総利益	167,438	179,287
販売費及び一般管理費	135,525	143,616
<b>営業利益</b>	<b>31,912</b>	<b>35,670</b>
営業外収益	1,431	1,877
受取利息	157	148
受取配当金	78	77
仕入割引	325	329
債務勘定整理益	100	133
持分法による投資利益	28	12
違約金収入	85	141
その他	656	1,034
営業外費用	2,242	1,859
支払利息	1,587	1,316
支払補償費	365	240
その他	288	302
<b>経常利益</b>	<b>31,102</b>	<b>2</b> → <b>35,688</b>
特別利益	1,446	1,374
固定資産売却益	17	383
投資有価証券売却益	1,009	60
負のれん発生益	18	279
補助金収入	369	574
その他	31	77
特別損失	2,164	10,744
固定資産売却損	45	72
固定資産除却損	336	482
減損損失	865	500
災害による損失	—	9,367
事業整理損	—	62
事業整理損失引当金繰入額	433	—
その他	483	258
税金等調整前当期純利益	30,384	26,319
法人税、住民税及び事業税	11,935	9,059
法人税等調整額	68	△ 135
法人税等合計	12,004	8,924
当期純利益	18,379	17,395
非支配株主に帰属する当期純利益又は 非支配株主に帰属する当期純損失(△)	△ 386	380
<b>親会社株主に帰属する当期純利益</b>	<b>18,766</b>	<b>3</b> → <b>17,015</b>

**1 営業収益 7,021億円** 前期比 ▶ 105.0%

営業収益のうち、売上高は前期比31,499百万円(4.9%)増加し、670,253百万円となりました。また、営業収入は前期比1,837百万円(6.1%)増加し、31,867百万円となりました。これは、主に当社における堅調な既存店販売、新設店舗による販売増に加え、前期の新設・増床店舗が期初より稼動したことなどによるものです。売上総利益は、147,419百万円(前期比10,011百万円の増加)となりました。売上高対比では22.0%となり前期に比べて0.5ポイント上昇しました。なお、これらに加えユアーズなどが前期に連結子会社となったことで、売上高、営業収入及び売上総利益の増加並びに売上総利益率の改善に寄与しています。

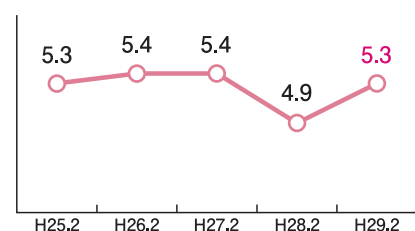
**2 経常利益 356.8億円** 前期比 ▶ 114.7%

営業外収益は、熊本地震被災時における災害見舞金や支援物資の受贈等により、前期比446百万円増加の1,877百万円となりました。一方、営業外費用は、支払利息の低減などにより前期比382百万円減少の1,859百万円となりました。これらの結果、経常利益は前期比4,586百万円(14.7%)増加の35,688百万円となり、売上高対比は5.3%と前期に比べて0.4ポイント上昇しました。

**3 当期純利益 170.1億円** 前期比 ▶ 90.7%

親会社株主に帰属する当期純利益は前期比1,751百万円(9.3%)減少の17,015百万円となりました。売上高対比は2.5%と前期に比べて0.4ポイント低下しました。

■ 経常利益率の推移 (単位:%)



### [連結] キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

	前 期 H27.3.1~H28.2.29	当 期 H28.3.1~H29.2.28
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	30,384	26,319
減価償却費	15,044	15,691
減損損失	865	500
災害損失	—	9,367
固定資産除却損	336	482
負のれん発生益	△ 18	△ 279
売上債権の増減額	△ 2,663	△ 2,240
法人税等の支払額	△ 11,741	△ 8,972
補助金の受取額	369	574
災害損失の支払額	—	△ 6,810
その他	△ 19,022	△ 1,529
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>13,553</b>	<b>33,104</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△ 25,914	△ 21,945
無形固定資産の取得による支出	△ 2,143	△ 954
その他	1,986	2,961
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 26,071</b>	<b>△ 19,938</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長短借入金の増減	19,691	△ 11,341
自己株式の取得による支出	△ 2,169	△ 4
配当金の支払額	△ 4,228	△ 4,729
その他	△ 336	△ 177
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>12,956</b>	<b>△ 16,252</b>
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	439	△ 3,086
現金及び現金同等物の期首残高	12,990	13,429
現金及び現金同等物の期末残高	13,429	10,342

**営業活動によるキャッシュ・フロー 331億円の収入**

・主な収入項目は、税金等調整前当期純利益26,319百万円、減価償却費15,691百万円です。  
・主な支出項目は、法人税等の支払額8,972百万円、災害損失の支払額6,810百万円及び仕入債務の減少額3,155百万円です。

**投資活動によるキャッシュ・フロー 199億円の支出**

・主な支出項目は、有形固定資産の取得による支出21,945百万円です。これは主に、店舗新設に係る先行投資等によるものです。  
・主な収入項目は、有形固定資産の売却による収入1,734百万円です。

**財務活動によるキャッシュ・フロー 162億円の収入**

・主な収入項目は、長期借入れによる収入38,412百万円です。  
・主な支出項目は、短期借入金の純増減額23,413百万円、長期借入金の返済による支出26,339百万円及び配当金の支払額4,729百万円です。

### [連結] 株主資本等変動計算書

単位:百万円

	株主資本					その他の包括 利益累計額	非支配 株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	合 計			
当期首残高	19,613	22,577	123,785	△18,483	147,493	155	10,203	157,851
連結会計年度中の変動額								
剰余金の配当			△ 4,729		△ 4,729			△ 4,729
連結範囲の変動				△ 23	△ 23			△ 23
親会社株主に帰属する当期純利益			17,015		17,015			17,015
自己株式の取得				△ 4	△ 4			△ 4
自己株式の処分		△ 1		26	25			25
連結子会社株式の取得による 持分の増減		△ 82			△ 82			△ 82
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)						718	1,193	1,911
連結会計年度中の変動額合計	—	△ 83	12,285	△ 1	12,200	718	1,193	14,112
当期末残高	19,613	22,493	136,070	△18,484	159,693	873	11,396	171,963



## 単体財務諸表

### [単体]貸借対照表

単位:百万円

	前期 H28.2.29	当期 H29.2.28		前期 H28.2.29	当期 H29.2.28
(資産の部)			(負債の部)		
流動資産	47,795	52,104	流動負債	109,630	114,267
現金及び預金	4,985	4,523	買掛金	24,436	25,832
売掛金	8,651	12,474	短期借入金	32,042	27,442
商品	22,880	24,124	1年内返済予定の長期借入金	22,135	20,003
原材料及び貯蔵品	245	267	リース債務	13	13
前払費用	722	794	未払金	14,784	19,637
繰延税金資産	2,176	2,127	未払費用	1,670	1,648
短期貸付金	4,301	4,541	未払法人税等	5,930	6,298
預け金	1,609	757	未払消費税等	35	1,953
その他	2,302	2,573	前受金	1,521	1,503
貸倒引当金	△ 79	△ 81	預り金	1,454	1,744
固定資産	323,298	333,622	賞与引当金	1,299	1,497
有形固定資産	272,556	282,707	役員賞与引当金	2	2
建物	131,936	133,824	ポイント引当金	2,163	2,323
構築物	5,872	5,514	商品券回収損失引当金	111	113
機械及び装置	1,742	1,981	災害損失引当金	—	1,876
車両運搬具	0	0	資産除去債務	—	6
工具、器具及び備品	5,188	5,133	その他	2,026	2,370
土地	125,544	126,534	固定負債	138,160	138,053
リース資産	27	14	長期借入金	101,720	101,116
建設仮勘定	2,243	9,702	リース債務	16	2
無形固定資産	7,124	6,814	長期預り敷金	21,309	21,430
借地権	4,148	4,145	長期預り保証金	1,694	1,385
ソフトウェア	1,352	1,558	退職給付引当金	5,131	5,586
その他	1,623	1,109	役員退職慰労引当金	1,314	1,507
投資その他の資産	43,617	44,100	資産除去債務	6,780	6,865
投資有価証券	2,377	2,932	その他	193	159
関係会社株式	11,058	11,265	負債合計	247,790	252,320
出資金	4	4			
関係会社出資金	866	904	(純資産の部)		
長期貸付金	1,479	1,478	株主資本	122,672	132,377
長期前払費用	782	707	資本金	19,613	19,613
繰延税金資産	4,168	4,064	資本剰余金	22,577	22,577
出店仮勘定	159	293	利益剰余金	98,961	108,670
差入敷金及び保証金	20,239	19,839	自己株式	△18,480	△18,484
その他	2,785	2,912	評価・換算差額等	630	1,029
貸倒引当金	△ 303	△ 302	純資産合計	123,302	133,406
資産合計	371,093	385,727	負債・純資産合計	371,093	385,727

### 新規出店と閉店

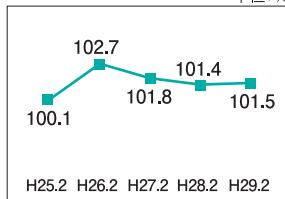
期末店舗数	105 店舗
新設	2 店舗
閉店	0 店舗

### 既存店売上高前年比

既存店売上高前年比	101.5%
客数前年比	100.6%
客単価前年比	101.3%

### 既存店売上高前年比

単位:%



### [単体]損益計算書

単位:百万円

	前期 H27.3.1~H28.2.29	当期 H28.3.1~H29.2.28
営業収益	609,032	648,030
売上高	580,576	618,663
売上原価	469,617	503,145
売上総利益	110,959	115,518
営業収入	28,455	29,367
営業総利益	139,414	144,885
販売費及び一般管理費	111,201	114,662
営業利益	28,212	30,222
営業外収益	1,167	1,560
受取利息及び受取配当金	238	349
仕入割引	324	328
債務勘定整理益	100	133
その他	503	749
営業外費用	2,024	1,643
支払利息	1,491	1,246
その他	533	396
経常利益	27,355	30,139
特別利益	1,175	629
固定資産売却益	13	55
投資有価証券売却益	604	—
補助金収入	369	574
抱合せ株式消滅差益	188	—
特別損失	565	9,221
固定資産売却損	44	22
固定資産除却損	183	282
減損損失	282	261
災害による損失	—	8,655
その他	54	—
税引前当期純利益	27,964	21,547
法人税等	10,153	7,109
当期純利益	17,811	14,438

### [単体]株主資本等変動計算書

単位:百万円

	株主資本					評価・換算差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	合計		
当期首残高	19,613	22,577	98,961	△18,480	122,672	630	123,302
事業年度中の変動額							△4,729
剰余金の配当			△4,729		△4,729		14,438
当期純利益			14,438		14,438		
自己株式の取得				△4	△4		△4
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)						398	398
事業年度中の変動額合計	—	—	9,709	△4	9,705	398	10,103
当期末残高	19,613	22,577	108,670	△18,484	132,377	1,029	133,406

### 営業収益

6,480 億円 前期比 106.4%

### 経常利益

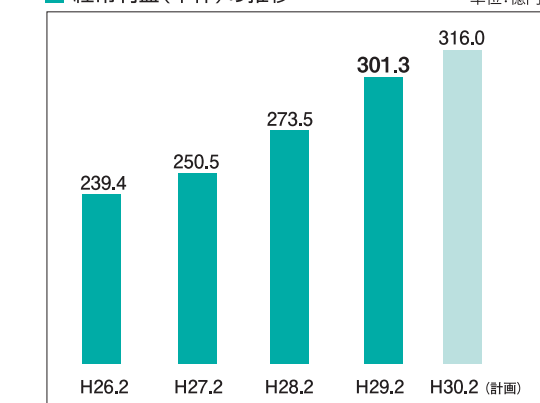
301.3 億円 前期比 110.2%

### 当期純利益

144.3 億円 前期比 81.1%

### 経常利益(単体)の推移

単位:億円



■ 会社概要

(平成29年2月28日現在)

設立年月日 昭和36年10月27日  
 本社所在地 広島市東区二葉の里三丁目3番1号  
 TEL 082-264-3211(代)  
 資本金 19,613,856,196円  
 従業員 正社員 2,446名  
 パートタイマー 5,542名(1日8時間換算)  
 店舗数 105店舗(エクセル単独店舗9店舗含む)

■ 中国地方 62店

広島県 34店 岡山県 10店  
 山口県 12店 島根県 6店

■ 九州地方 33店

福岡県 17店 佐賀県 3店  
 大分県 2店 長崎県 2店  
 熊本県 9店

■ その他 10店

香川県 3店 兵庫県 2店  
 徳島県 1店 その他 4店

■ 役員一覧

(平成29年2月28日現在)

取締役会長 山西 義政  
 代表取締役社長 山西 泰明  
 専務取締役 梶原 雄一郎  
 専務取締役 三家本 達也  
 取締役 中村 豊三  
 取締役 本田 雅彦  
 取締役 相田 美砂子  
 取締役 米田 邦彦  
 常勤監査役 川本 邦昭  
 監査役 松原 治郎  
 監査役 通堂 泰幸

■ 株式の状況

(平成29年2月28日現在)

発行可能株式総数 195,243,000株  
 発行済株式の総数 78,861,920株  
 株主数 4,734名  
 1単元の株式数 100株

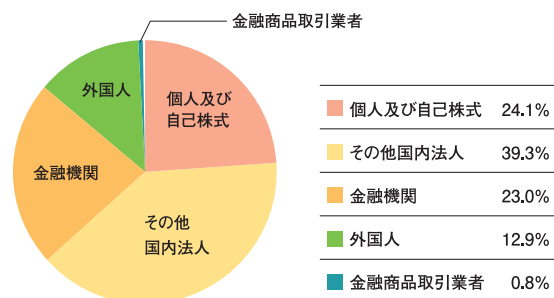
■ 大株主の状況

(平成29年2月28日現在)

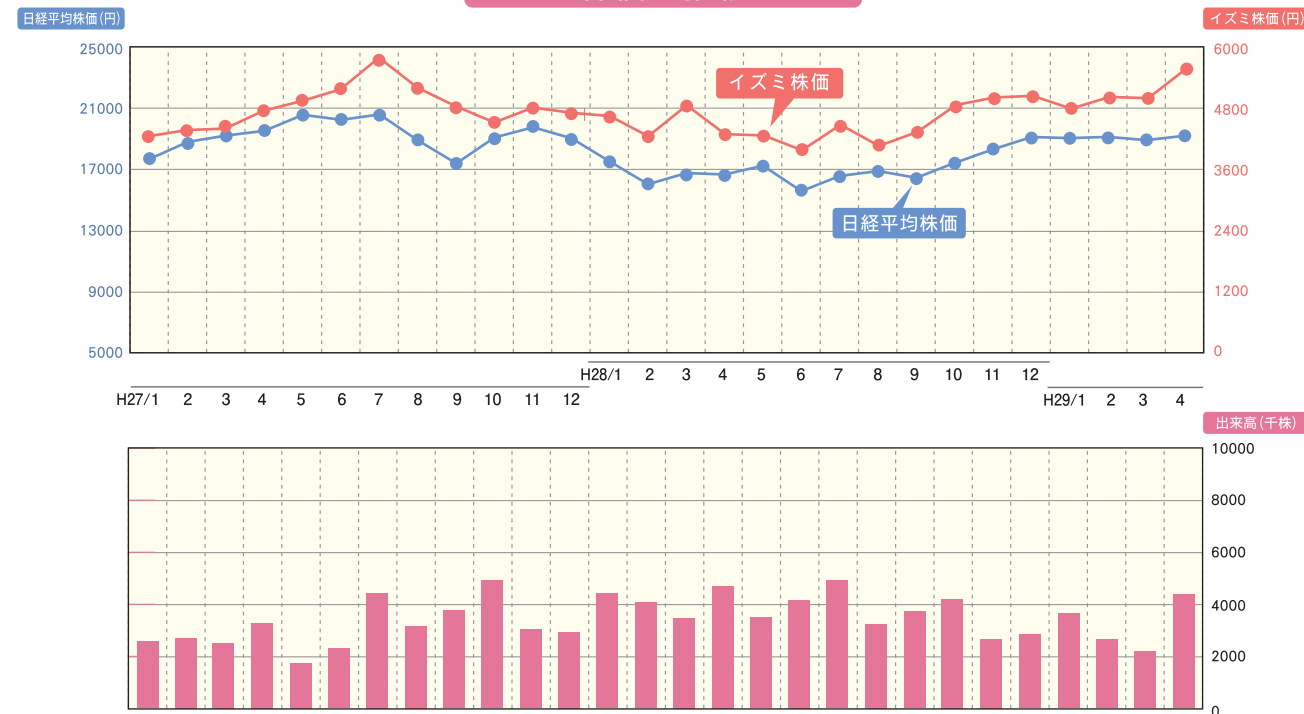
株主名	持株数	持株比率
山西ワールド(株)	19,935千株	27.8%
第一不動産(株)	4,208千株	5.9%
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	2,954千株	4.1%
(株)広島銀行	2,362千株	3.3%
イズミ広島共栄会	2,157千株	3.0%
日本生命保険(相)	2,093千株	2.9%
山西 泰明	2,036千株	2.8%
第一生命保険(株)	2,030千株	2.8%
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	1,785千株	2.5%
全国共済農業協同組合連合会	1,335千株	1.9%

(注)持株比率は、自己株式(7,201,306株)を控除して計算しています。

■ 単元株式の所有状況



■ 株価の推移



■ 株主優待制度

■ 株主ご優待券またはギフト券

毎年2月末日および8月31日現在、当社株式100株以上ご所有の株主の皆様に対して、「株主ご優待券」か「ギフト券」をお選びいただき、ご所有株式数に応じて以下の通りお贈りいたします。

ご所有株式数	株主ご優待券	ギフト券
100株以上	10枚 (2,000円相当)	500円相当
200株以上	15枚 (3,000円相当)	
300株以上	20枚 (4,000円相当)	
400株以上	25枚 (5,000円相当)	
500株以上	30枚 (6,000円相当)	
1,000株以上	50枚 (10,000円相当)	2,000円相当
2,000株以上	100枚 (20,000円相当)	
3,000株以上	150枚 (30,000円相当)	
4,000株以上	200枚 (40,000円相当)	
5,000株以上	250枚 (50,000円相当)	
6,000株以上	300枚 (60,000円相当)	
8,000株以上	400枚 (80,000円相当)	
10,000株以上	500枚 (100,000円相当)	

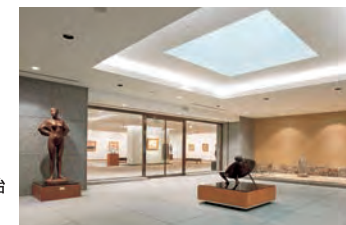
※「株主ご優待券」は、2千円以上のお買上につき、2千円ごとに各1枚(200円割引券)をご使用いただけます。

■ 泉美術館ご招待券の贈呈

平成29年2月28日現在で当社株式を1単元以上ご所有の株主の皆様へ「泉美術館ご招待券」を贈呈させていただきます。

本物の文化とやすらぎを…。

公益財団法人 **泉美術館**



- 開館時間 午前10時から午後5時 (入館は午後4時30分まで)
- 休館日 月曜日(祝祭日は開館)、年末年始 ※展示替えによる臨時休館あり
- 住所 〒733-0833 広島市西区商工センター2丁目3番1号 エクセル5階 TEL (082) 276-2600
- ホームページ <http://www.izumi-museum.jp/>



## 株主メモ

事業年度	毎年3月1日から翌年2月末日まで
定時株主総会	毎年5月開催
基準日	定時株主総会 毎年2月末日 期末配当金 毎年2月末日 中間配当金 毎年8月31日
公告掲載新聞	日本経済新聞
上場金融商品取引所	東京証券取引所市場第一部
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
[郵便物送付先] (**)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
[電話照会先] (**)	☎ 0120-782-031

(\*\*)平成25年1月より郵便物送付先・電話照会先が上記のとおり変更となっております。

### インターネットホームページアドレス

<http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

#### ■ 株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。

証券会社の口座のご利用がない株主様は、上記電話照会先までご連絡ください。

#### ■ 特別口座について

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設しております。特別口座についてのご照会及び住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

#### ■ マイナンバー制度に関するお手続きについて

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係のお手続きが必要となります。

##### 【株式関係事務におけるマイナンバーの利用目的】

法令に定められたとおり、支払調書に株主様のマイナンバーを記載し、税務署に提出いたします。このため、株主様からお取引のある証券会社等へ、以下のとおりマイナンバーを届出いただく必要がございます。

##### ●証券会社の口座で株式を管理されている株主様

お取引の証券会社までお問い合わせください。

##### ●証券会社とのお取引がない株主様

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部(上記記載)までお問い合わせください。